

妙法蓮華經。 陀羅尼品。 第二十六

爾の時に藥王菩薩、即ち座より起つて偏に右の肩を袒にし、合掌し佛に向いたてまつりて、佛に白して言さく、
世尊、若し善男子・善女人の能く法華經を受持することあらん者、若しは讀誦通利し若しは經卷を書寫せんに、幾所の福をか得ん。

佛、藥王に告げたまわく、

若し善男子・善女人あつて、八百萬億那由他恒河沙等の諸佛を供養せん。汝が意に於て云何、其の所得の福、寧ろ多しと爲んや不や。

甚だ多し、世尊。

佛の言わく、

若し善男子・善女人能く是の經に於て、乃至一四句偈を受持し、讀誦し解義し説の如くに修行せん、功德甚だ多し。

爾の時に藥王菩薩、佛に白して言さく、

世尊、我今當に説法者に陀羅尼呪を與えて、以て之を守護すべし。

即ち呪を説いて曰さく、

- | | | | | | | | | |
|-----|-----|--------|---------|---------|-------|-------|----|----|
| 安爾 | 曼爾 | 摩禰 | 摩摩禰 | 旨隸 | 遮黎第 | 賒咩 | 賒履 | 多瑋 |
| 羶帝 | 目帝 | 目多履 | 沙履 | 阿瑋沙履 | 桑履 | 沙履 | 叉裔 | 阿 |
| 叉裔 | 阿耆膩 | 羶帝 | 賒履 | 陀羅尼 | 阿盧伽婆娑 | 簸蔗毗叉膩 | | |
| 禰毗剃 | 阿便哆 | 邏禰履剃 | 阿宣哆波隸輸地 | 歐究隸 | 牟究隸 | | | |
| 阿羅隸 | 波羅隸 | 首迦差 | 阿三磨三履 | 佛駄毗吉利秩帝 | 達磨 | | | |
| 波利差 | 帝 | 僧伽涅瞿沙禰 | 婆舍婆舍輸地 | 曼哆邏 | 曼哆邏 | | | |
| 叉夜多 | 郵樓哆 | 郵樓哆 | 憍舍略 | 惡叉邏 | 惡叉治多治 | | | |
| 阿婆盧 | 阿摩若 | 那多夜 | | | | | | |

世尊、是の陀羅尼神呪は六十二億恒河沙等の諸佛の所説なり。
若し此の法師を侵毀することあらん者は、則ち爲れ是の諸佛を
侵毀し已れるなり。

時に釋迦牟尼佛、藥王菩薩を讚めて言わく、
善哉善哉、藥王、汝此の法師を愍念し擁護するが故に是の
陀羅尼を説く。諸の衆生に於て饑益する所多からん。

爾の時に勇施菩薩、佛に白して言さく、
世尊、我亦法華經を讀誦し受持せん者を擁護せんが爲に、
陀羅尼を説かん。若し此の法師、是の陀羅尼を得ば、若しは
夜叉、若しは羅刹、若しは富單那、若しは吉蔗、若しは鳩槃荼、
若しは餓鬼等、其の短を伺い求むとも能く便を得ることなけ
ん。

即ち佛前に於て呪を説いて曰さく、
淫隸 摩訶淫隸 郁枳 目枳 阿隸 阿羅婆第 淫隸第
淫隸多婆第 伊緻柅 韋緻柅 旨緻柅 淫隸墀柅 淫墀婆底
世尊、是の陀羅尼神呪は恒河沙等の諸佛の所説なり、亦皆隨喜
したもう。若し此の法師を侵毀することあらん者は、則ち爲れ
是の諸佛を侵毀し已れるなり。

爾の時に毗沙門天王護世者、佛に白して言さく、
世尊、我亦衆生を愍念し、此の法師を擁護せんが爲の故に、
是の陀羅尼を説かん。

即ち呪を説いて曰さく、
阿梨 那梨 窶那梨 阿那盧 那履 拘那履
世尊、是の神呪を以て法師を擁護せん。我亦自ら當に是の經
を持たん者を擁護して、百由旬の内に諸の衰患なからしむべ
し。

爾の時に持國天王、此の會中に在つて、千萬億那由他の

乾闥婆衆の恭敬し圍繞せると、前んで佛所に詣で、合掌し佛に白して言さく、

世尊、我亦陀羅尼神呪を以て、法華經を持たん者を擁護せん。

即ち呪を説いて曰さく、

阿伽彌 伽彌 瞿利 乾陀利 旃陀利 摩瞪耆
常求利 浮樓莎柅 頰底

世尊、是の陀羅尼神呪は四十二億の諸佛の所説なり。若し此の法師を侵毀することあらん者は、則ち爲れ是の諸佛を侵毀し已れるなり。

爾の時に羅刹女等あり、一を藍婆と名け、二を毗藍婆と名け、三を曲齒と名け、四を華齒と名け、五を黑齒と名け、六を多髮と名け、七を無厭足と名け、八を持瓔珞と名け、九を臯諦と名け、十を奪一切衆生精氣と名く。是の十羅刹女、鬼子母并に其の子及び眷屬と俱に佛所に詣で、同聲に佛に白して言さく、

世尊、我等亦法華經を讀誦し受持せん者を擁護して、其の衰患を除かんと欲す。若し法師の短を伺い求むる者ありとも、便を得ざらせめん。

即ち佛前に於て呪を説いて曰さく、

伊提履 伊提泯 伊提履 阿提履 伊提履 泥履 泥履 泥履
泥履 泥履 樓醯 樓醯 樓醯 樓醯 多醯 多醯 多醯 多醯
兜醯 兜醯

寧ろ我が頭の上にとも法師を惱すことなかれ。若しは夜叉、若しは羅刹、若しは餓鬼、若しは富單那、若しは吉蔗、若しは毗陀羅、若しは犍駄、若しは烏摩勒伽、若しは阿跋摩羅、若しは夜叉吉蔗、若しは人吉蔗、若しは熱病せしむること若しは一日、若しは二日、若しは三日、若しは四日、乃至七日、若しは常に熱病せしめん。若しは男形、若しは女形、若しは童

男形、若しは童女形、乃至夢の中にも亦復惱すことなかれ。
即ち佛前に於て偈を説いて言さく、

若し我が呪に順ぜずして 説法者を惱亂せば

頭破れて七分に作ること 阿梨樹の枝の如くならん

父母を殺する罪の如く 亦油を壓す殃

斗秤もつて人を欺誑し 調達が破僧罪の如く

此の法師を犯さん者は 當に是の如き殃を獲べし

諸の羅刹女、此の偈を説き已つて、佛に白して言さく、

世尊、我等亦當に身自らは是の經を受持し讀誦し修行せん者

を擁護して、安穩なることを得、諸の衰患を離れ、衆の毒藥

を消せしむべし。

佛、諸の羅刹女に告げたまわく、

善哉善哉、汝等但能く法華の名を受持せん者を擁護せんすら、

福量るべからず。何に況んや、具足して受持し、經卷に華・香

・瓔珞・抹香・塗香・燒香・旛蓋・伎樂を供養し、種種の燈

・蘇燈・油燈・諸の香油燈・蘇摩那華油燈・瞻蔔華油燈・

婆師迦華油燈・優鉢羅華油燈を燃し、是の如き等の百千種をもつ

て供養せん者を擁護せんをや。臯諦、汝等及び眷屬、應當に是の

如き法師を擁護すべし。

此の陀羅尼品を説きたもう時、六萬八千人無生法忍を得たり。